談話室

宇宿康子さん，石崎宏子さん，星野紀代子さんへの謝辞

杉井清昌※

NTT 光エレクトロニクス研究所
〒319-11 茨城県那珂郡東海村白方白根 162

(1991年5月11日　受理)

Acknowledgement to Mrs. Y. Usuku, H. Ishizaki and K. Hoshino

Kiyomasa SUGII

NTT OPTO-ELECTRONICS LABS
Tokai-Mura, Ibaraki-ken

(Received May 11, 1991)

あるいは多くの会員の皆様にとって，標記ご三方のお名前はご存知ないかもしれません。しかし，ここ数年で「表面科学」の年間発行号数が6→9→10と急激に増えたこと，さらに誇るべきこととしてミスがなく，きわめて質が高い学会誌との評価を得ていることは皆様お気づきのことと察します。実はこれら質，量両面の充実を舞台裏で支えてこられた方々が宇宿康子さん，石崎宏子さん，星野紀代子さんなのです。それも，学会財政事情とは申せ，破格の薄給で!!

これまでのご活躍，ご功績を考えると非常に口惜しいことですが，それぞれご家庭の事情で，今年4月をもって学会を去られることになりました。やや時宜を逸した感がありますが，改めて，ご三方のやってこられましたお仕事を紹介し，ご功績の一端を皆様にご理解していただくべく筆をとった次第です。

会誌「表面科学」ができあがる手順はざっと以下のとおりです。まず，編集委員会で企画案が検討されます。これを受けて，執筆依頼，原稿催促，閲読依頼，印刷のための原稿指示，校正といった一連の編集・制作事務がうまく流れて，最終的に皆様のお手元に会誌が届けられるわけです。この間，約10ヵ月という時間が必要とされます。これがほとんど毎月のように発生するわけですから，常に平均20〜30件に及ぶ論文の進行管理をしていなければなりません。計画性，実務能力，専門性を身につけていないと，こなせない仕事であることをご理解いただけると思います。

宇宿さんは1985年6月から上記の仕事を始めていただきました。昔，東京化学同人に勤務されたという貴重な経験をおもちで，会誌を出版するという大変な仕事の傍ら，「表面科学」の編集制作事務の土台作りを，独力でなされました。

石崎さんは1987年7月から加わっていただきました。執筆依頼，原稿催促など進行管理の中でもとくに神経を使う部分をやっていただき，日常的に発生する，いろいろなトラブルを礼儀正しく，かつ巧みに解決された功績は大でした。

星野さんは，1989年5月から加わっていただきました。第10巻8号で創立10周年記念の座談会記事を載せましたが，4時間に及ぶ座談会のテープ起こしでたいへんお世話になりました。面倒な編集関連の会計業務を間違いなくこなしていただき助かりました。

私は副編集委員長，委員長と3年間，お世話になりっぱなしでした。とくに，この1年余りは会誌月刊化に向けた体制作りのために，ご三方に本来業務を越えて，ご協力いただきました*。最後になりましたが，一緒に仕事をさせていただいた中で，とくに印象に残ったことを申し上げまして，私よりの謝辞に代えさせていただきます。

1. 「学会誌づくりは子育てと同じ。自分達が企画したものが，次第次第と形になっていくのを見るのは楽しい。」(宇宿さん) これは学会役員一同，肝に命じて置くべき良い言葉だと感じ入っております。
2. 日常的に緻密な仕事を積み重ねて，始めて出来上がる会誌出版の世界では，善意だけでは仕事にならない。ご三方のように経験に裏付けられた実務遂行能力が必須であることを身にしみて感じております。
3. ジョブ・シェアーというこれからの仕事の進め方のお手本を示していただいた。有能ゆえにいろいろと多忙な方に，世の中のお役に立っていただく方策として今後ますます重要になると思います。

これまでのご三方のご功績をむだにすることがなきよう，学会といたしまして会誌「表面科学」の一層の充実を図っていく所存でございます。宇宿さん，石崎さん，星野さんにおかれましても，さらに充実した人生を楽しまれんことをお祈り申し上げます。永い間，本当にありがとうございました。

※ 1989，1990年度「表面科学」編集委員長

* この間，1990年7月〜1991年3月は編集制作業務をエヌ・ティー・エスに委託しました。また，1991年4月以降は三田出版に委託しております。2度にわたる委託先変更に伴う業務引継およびフォローという大変な仕事を見事にやり遂げられました。